

第31回宮崎県スポーツ医学研究会 プログラム

日時：平成16年10月2日（土）14:50~18:20

場所：宮崎県医師会館 地下大ホール

〒880-0023 宮崎市和知川原1-101 ☎ 0985-22-5118

会長：田島直也

参加者へのお知らせ

1. 参加費；医 師 1,000円
 コメディカル 500円
2. 年会費；2,000円 ※14:20～受付を行います

世話人会のお知らせ

14:20~14:40 宮崎県医師会館 小会議（1階）

宮崎県スポーツ医学研究会事務局
宮崎大学医学部整形外科学教室内
〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原5200
TEL 0985-85-0986 FAX 0985-84-2931

共催：宮崎県スポーツ医学研究会・ファイザー株式会社

☆ プログラムは裏面です ☆

14:50 開 会

総 会

15:00～16:00 特別講演Ⅰ

座長 帖佐 悦男

「肩肘の投球障害の診断と治療」

東京大学大学院総合文化研究科生命環境系身体運動科学研究室

助教授 渡會 公治 先生

16:10～17:10 特別講演Ⅱ

座長 小岩屋 靖

「内科的スポーツ障害とメディカルチェック」

横浜市スポーツ医科学センター

センター長 村山 正博 先生

17:20～18:20 特別講演Ⅲ

座長 田島 直也

「アンチ・ドーピングの取り組み ～静岡県の対応について～」

静岡県体育協会スポーツドクター協議会

会長 鈴木 勝彦 先生

日本整形外科学会教育研修会（専門医またはスポーツ医 各1単位）

※認定番号Ⅰ：04-0692-01

Ⅱ：04-0692-03

Ⅲ：04-0692-02

受講料は、各1,000円です。

日本医師会生涯教育講座

健康スポーツ医学再研修会

受講料は無料。

18:20 閉 会

第32回宮崎県スポーツ医学研究会 プログラム

日時：平成17年2月5日（土） 16:20~18:30

場所：宮崎県医師会館 地下大ホール

〒880-0023 宮崎市和知川原1-101

☎ 0985-22-5118

会長：田島直也

宮崎県スポーツ医学研究会事務局

宮崎大学医学部整形外科学教室内

〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原5200

TEL 0985-85-0986 FAX 0985-84-2931

共催：宮崎県スポーツ医学研究会・ファイザー株式会社

参加者へのお知らせ

1. 参加費；医 師 1,000円
 コメディカル 500円
2. 年会費；2,000円 ※15:50～受付を行います

演者へのお知らせ

1. 口演時間；1題6分、討論3分
2. 発表方法；
口演発表はPC（パソコン）のみ使用可能ですのであらかじめ御了承ください。
(1). コンピュータは事務局で用意いたします。持ち込みはできません。
(2). 事前に動作確認を致しますので、データはCD-R（RW）に作成していただき
2月2日（水）必着で事務局までお送りください。

CD-R（RW）作成要領
(1). 発表データの形式はMicrosoft Power Point Windows版に限ります。
(2). 発表データのフォントについては、標準で装備されているもの（MS明朝、
MSゴシック、MSP明朝、MSPゴシック等）を使用してください。
(3). CD-R（RW）のケースの表面に次の内容を明記してください。
①演題番号 ②筆頭演者名 ③所属
(4). CD-R（RW）のラベル面には演題番号と筆頭演者名を明記してください。

*メディアについてはCD-R（RW）以外は受け付けません。
*スライドでのプレゼンテーションを希望される場合にはご連絡ください。
3. 抄 録；口演内容を記録に残しますので、400字程度の抄録を
当日、受付に御提出下さい。

世話人会のお知らせ

15:15~16:00 宮崎県医師会館 小会議室（1階）

16:20 開 会

総 会

16:30 一般演題

座長 園田 典生

1. スポーツによる上・下前腸骨棘剥離骨折の治療経験

宮崎県立延岡病院 整形外科

○黒木 修司 木屋 博昭 弓削 孝雄
藤本 徹 西里 徳重 大宮 博史
山田 正寿

2. 当院におけるアキレス腱皮下断裂の治療成績

高千穂町国民健康保険病院

○塩月 康弘 栗原 典近 増田 寛
黒木 誠 佐藤 直幸

3. 一流高校空手選手に対するメディカルサポート

宮崎大学医学部 整形外科

○河原 勝博 帖佐 悦男 黒木 龍二
矢野 浩明 山本恵太郎 河野 立
勝畷 葉子 福島 克彦

4. ラグビー日本代表欧州遠征への帯同経験

橘病院 整形外科

○田島 卓也 柏木 輝行 狩野 文夫
矢野 良英
宮崎大学医学部 整形外科 帖佐 悦男

5. U-19サッカー日本代表チームの帯同経験

(財)弘潤会野崎東病院 整形外科

○樋口 潤一 田島 直也

《休 憩》

17:30 特別講演

座長 帖佐 悦男

『スポーツ選手の手・肘部傷害とその治療』

兵庫医科大学整形外科学教室 助教授 田中 寿一 先生

※日整会教育研修会専門医資格継続単位1単位
(または " スポーツ医資格継続単位1単位)

認定番号: 04-1436-00

受講料: 1,000円

※日本医師会生涯教育講座 3単位

※日本医師会健康スポーツ医学再研修会 1単位

18:30 閉会

第 33 回宮崎県スポーツ医学研究会 プログラム

日 時：平成 17 年 10 月 1 日（土） 14:50～18:20

場 所：宮崎県医師会館 地下大ホール
〒880-0023 宮崎市和知川原 1-101 ☎ 0985-22-5118

会 長：帖佐 悦男

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 参加者へのお知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

1. 参加費；医 師 1,000 円
 コメディカル 500 円
2. 年会費；2,000 円

※14:20～受付を行います

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 世話人会のお知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

14:20～14:50 宮崎県医師会館 小会議（1階）

宮崎県スポーツ医学研究会事務局
宮崎大学医学部整形外科学教室内
〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原 5200
TEL 0985-85-0986 FAX 0985-84-2931

共催：宮崎県スポーツ医学研究会・ファイザー株式会社

14:50 開 会
総 会

15:00～16:00 特別講演Ⅰ 座長 田島 直也

「いわゆる“肉ばなれ”とは？」

国立スポーツ科学センター スポーツ医学研究部
副主任研究員 奥脇 透 先生

16:10～17:10 特別講演Ⅱ 座長 小岩屋 靖

「スポーツと不整脈」

埼玉医科大学 循環器内科
教授 松本 万夫 先生

17:20～18:20 特別講演Ⅲ 座長 帖佐 悦男

「スポーツ膝痛の診断と治療」

東京医科歯科大学大学院運動器外科学
教授 宗田 大 先生

◆◆◆◆◆ 認定単位 ◆◆◆◆◆

日本整形外科学会教育研修会（専門医またはスポーツ医 各1単位）

※認定番号Ⅰ：05-0729-01 必須分野 [02 08]

Ⅱ：05-0729-02 " [02 14]

Ⅲ：05-0729-03 " [02 12]

受講料は、各1,000円です。

日本医師会生涯教育講座（3単位）

健康スポーツ医学再研修会 受講料は無料。

18:20 閉 会

第34回 宮崎県スポーツ医学研究会 プログラム

日 時：平成18年3月11日（土）14：30開会
会 場：JA・AZMホール 大ホール（1階）
☎880-0032 宮崎市霧島1-1-1 ☎0985(31)2000
会 長：帖 佐 悦 男（宮崎大学医学部整形外科学教室）

事務局：☎889-1692 宮崎郡清武町大字木原5200
宮崎大学医学部整形外科学教室内 担当 山本恵太郎
☎0985(85)0986（直通） FAX 0985(84)2931

共 催 宮崎県スポーツ医学研究会
ファイザー株式会社

参加者へのお知らせ

1. 参加費；医 師 1,000 円
 コメディカル 500 円 学生 無料
2. 年会費；2,000 円 ※14:00～受付を行います

演者へのお知らせ

1. 口演時間；一般演題 1 題 6 分、討論 4 分
 シンポジウム 1 題 8 分、一括討論とします。
2. 発表方法；
 口演発表は PC（パソコン）のみ使用可能ですのであらかじめ御了承ください。
 (1). コンピュータは事務局で用意いたします。持ち込みはできません。
 (2). 事前に動作確認を致しますので、データは CD-R（RW）に作成していただき 3 月 6 日（月）必着で事務局までお送りください。
 CD-R(RW)作成要領
 (1). 発表データの形式は Microsoft Power Point Windows 版に限ります。
 (2). 発表データのフォントについては、標準で装備されているもの（MS 明朝、MS ゴシック、MSP 明朝、MSP ゴシック等）を使用してください。
 (3). CD-R(RW)のケースの表面に次の内容を明記してください。
 ①演題番号 ②筆頭演者名 ③所属
 (4). CD-R(RW)のラベル面には演題番号と筆頭演者名を明記してください。
 *メディアについては CD-R(RW)以外は受け付けません。

世話人会のお知らせ

13:45～14:20 小研修室（1階）

特別講演のお知らせ

17:10～18:10

『肩関節のスポーツ障害、疼痛性疾患の診療ポイント』

日本医科大学整形外科学教室

教授 伊藤 博元 先生

註 上記講演は、次の単位として認定されています。

- 日本整形外科学会教育研修会（専門医またはスポーツ医）資格継続単位 1 単位
※必須分野 [02 外傷性疾患（スポーツ障害を含む）、09 肩甲帯・肩・肘関節疾患]
※認定番号：05-1704-00 ※受講料：1,000 円
- 日本医師会生涯教育講座 無料
- 健康スポーツ医学再研修会 無料

14:30～15:30 一般演題

座長 樋口 潤一

1. 柔道による膝関節脱臼の一例
宮崎大学医学部 整形外科 小島 岳史、ほか
2. 反復性肩関節前方不安定性に対する鏡視下手術
—コンタクトスポーツ選手の追加補強手術—
弘潤会野崎東病院 井上 篤、ほか
3. 当院における膝十字靭帯再建術について
(社) 八日会 藤元早鈴病院 整形外科 園田 典生、ほか
4. 子どもの体力向上の具体的方策について～親と子の体力づくり講習会の検証～
宮崎大学教育文化学部 笹田 未央、ほか
5. 要介護・要支援者の運動指導について
宮崎大学教育文化学部 廣田 彰、ほか
6. 運動競技中に頻脈発作を来した2例
宮崎大学医学部 第一内科 名越 敏郎、ほか

☆☆☆ 総会 ☆☆☆

15:50～17:00

シンポジウム：スポーツドクター・トレーナーの役割

座長 園田 典生 山本 恵太郎

7. 全国高校野球選手権宮崎大会における理学療法士のトレーナー活動について
～現状と今後の課題～
宮崎県理学療法士会地方リハビリ推進委員会成人部会 三原 成人、ほか
8. 当院リハビリテーション部のスポーツ現場とのかかわり
—理学療法士としてのトレーナー活動—
弘潤会野崎東病院 尾崎 勝博、ほか
9. スポーツドクター とくに帯同ドクターの役割
橘病院 田島 卓也、ほか
10. ユース年代の日本代表チームにおけるメディカルサポート
獅子目整形外科病院 樋口 潤一
11. 競技力向上とスポーツドクターの役割について—競技団体等の現場の立場から—
財団法人宮崎県体育協会 佐土原 誠

☆☆☆ 休憩 ☆☆☆

17:10～18:10 特別講演

座長 帖佐 悦男

『肩関節のスポーツ障害、疼痛性疾患の診療ポイント』

日本医科大学整形外科学教室 教授 伊藤 博元 先生

開 会 (14:30)

一般演題 (14:30~15:30)

座長 樋口 潤一

1. 柔道による膝関節脱臼の一例

宮崎大学医学部 整形外科

○小島 岳史 帖佐 悦男 矢野 浩明
山本恵太郎 河原 勝博

柔道による膝関節脱臼の一例を経験した。症例は16歳(高校2年生)、男子 柔道部員。柔道歴10年。身長177cm、体重115kg。平成17年4月練習中に相手の技を返そうとした際体重をかけられ受傷した。近医にて整復処置施行後、当科紹介入院となった。受傷後2週で膝関節鏡+MCL修復術を施行、受傷後8週で膝関節鏡視下ACL+PCL再建術を施行した。現在、競技復帰に向けリハビリ加療中である。本症例の初回手術に関しては、MCLの嵌頓により整復位獲得が得られておらず、またPCLの修復は不可であった。また、ACL+PCL同時再建術に関しても含め若干の文献的考察を加え報告する。

2. 反復性肩関節前方不安定症に対する鏡視下手術 —コンタクトスポーツ選手の追加補強手術—

弘潤会野崎東病院 整形外科

○井上 篤 田島 直也 後藤 啓輔
小松 奈美
山本恵太郎

宮崎大学医学部 整形外科

【はじめに】現在では suture anchor 法がスタンダードな術式となってきたが、多くの要因が手術成績に影響してくる。特にスポーツ選手などのハイリスク症例は再脱臼の恐れがあり、当院では最近このような症例に対し補強手術をおこなっている。

【症例】平成15年より外傷性肩関節不安定症に対し鏡視下Bankart修復術をおこなった症例のうち若年者コンタクトスポーツ選手に対し鏡視下腱板疎部縫合を追加している。原則としてオーバーヘッドスポーツ選手にはおこなっていない。その手技と疼痛や可動域制限等につき短期成績を調査したので報告する。

3. 当院における膝前十字靭帯再建術について

(社) 八日会 藤元早鈴病院 整形外科 ○園田 典生 村上 恵美
宮崎大学医学部 整形外科 帖佐 悦男

膝前十字靭帯（以下 ACL）再建術はその術後成績の向上からスポーツ選手のみならずその適応は広がった。また手術侵襲を少なくする目的で再建材料が膝蓋腱よりハムストリングが使用される傾向になり術式も1ルートから2ルートへと発展してきており、当院でも昨年8月以降は2ルート再建術を施行している。今回平成16年6月以降当院でACL再建術を施行し、術後6ヶ月以上経過した19例についてその術後成績をふまえて報告する。

4. 子どもの体力向上の具体的方策について ～親と子の体力づくり講習会の検証～

宮崎大学教育文化学部 ○笹田 未央 廣田 彰

「親と子の体力づくり講習会」について、子どもの体力向上の具体的方策としての意義という観点から検討した。講習会の内容は、各種の運動遊びができる探検コーナー、体力測定コーナー、親子レクリエーション等を実施した。そして、当日の参加者からの「参加の動機・きっかけ」、「実施した内容に対する感想」、さらには「実施2週間後の参加者へのアンケート調査」から、子どもの体力向上策として有効性について検討をおこなった。その結果、運動遊びの楽しさ、運動を媒体としての親子の触れ合いの大切さを認識するとともに、日頃気づかない子どもの特性を保護者が知ることができたことなど、ほとんどの参加者が講習会の目的に添った体験をすることができていた。2週間後のアンケート調査では、当日いろいろな運動遊びや体力測定を経験したことで、運動の必要性に対する意識が芽生えたとともに、それが生活の中の行動の変化にもつながっている様子がうかがえた。

5. 要介護・要支援者の運動指導について

宮崎大学教育文化学部
メディカルフィットスパ わくわく

○廣田 彰
日吉 眞理子

要介護・要支援者11名（介護1：5名、支援：6名）を対象に、自立歩行と転倒予防を最終目的として、股関節周辺筋のストレッチングと筋力強化を中心とする運動指導を行い、その効果について検討を行った。1日約1時間、週2回、計24回の運動指導の結果、柔軟性、動作性、歩行速度などの生活に必要な身体機能に顕著な好転がみられた。またさらに、運動を経験することによる個々人の心理的な変化も大きく、QOLの向上にも影響していた。このことから、要介護・要支援者の運動指導では、運動プログラムの精選とともに、対象者との質的な関わりを持つことが指導する上で重要であると考えられた。

6. 運動競技中に頻拍発作を来した2例

宮崎大学医学部 第一内科

○名越 敏郎 川越 純志 鬼塚 久充
石川 哲憲 伊達 晴彦 今村 卓郎
江藤 胤尚

症例1は36歳、男性。野球や卓球の競技中に動悸が出現し、眼前暗黒感を伴ったため、近医を受診した。24時間心電図やトレッドミル運動負荷心電図を行ったが頻拍は誘発されなかった。その後も競技中に動悸、めまいが出現するため、当科を受診。電気生理学検査で心拍数160bpmと230bpmの2種類の上室性頻拍（房室結節性回帰性頻拍、房室結節間回帰性頻拍）が誘発された。カテーテルアブレーション術で根治した。症例2は17歳、男性。部活動の200mハードル競技中に動悸、眼前暗黒感が出現した。近医での24時間心電図やトレッドミル運動負荷心電図では頻拍は誘発されなかったが、その後も競技中に動悸、眼前暗黒感が出現した。そのため心電図装着下に200mハードル走を行ったところ、心拍数240bpmの頻拍発作が出現した。電気生理学検査で1：1伝導の心房粗動と房室結節性回帰性頻拍が誘発され、カテーテルアブレーション術で以後発作は出現しなくなった。2例とも通常の12時間心電図や運動負荷心電図では頻拍は認めなかったが、電気生理学検査で頻拍の誘発ができ、カテーテルアブレーション術で治療可能であった。

☆☆☆ 総 会 ☆☆☆

シンポジウム (15:50~17:00)

: スポーツドクター・トレーナーの役割

座長 園田 典生 山本 恵太郎

7. 全国高校野球選手権宮崎大会における 理学療法士のトレーナー活動について ～現状と今後の課題～

三原成人¹⁾ 前原啓人²⁾ 宮永哲郎²⁾
椋田俊博²⁾ 花田智³⁾

1)宮崎県理学療法士会地域リハビリ推進委員会成人部
会 2)同心会 古賀総合病院リハビリテーション技
術部 3)同心会 介護老人保健施設春草苑

Key Words 高校野球・メディカルサポート・傷害
予防

〔はじめに〕

宮崎県における高等学校野球のスポーツ傷害予防への重要性が宮崎県高校野球連盟(以下:県高野連)・指導者・選手と浸透しつつあり、理学療法士によるメディカルサポート(以下:サポート)体制が評価されてきている。サポートの目的としては傷害の予防及びコンディショニング、アクシデントに対する救急処置であり、我々は平成13年度の第83回全国高校野球選手権宮崎大会(以下:県大会)から県高野連からの依頼で県予選におけるベスト8以降のサポートを現在まで5年間実施している。また、全国的にも本県と同様な取り組みがなされており、ますます推進されつつある様子が伺える。先駆的な活動としては全国高校野球選手権甲子園大会において、平成5年度より高野連と大阪大学医学部整形外科教室、スポーツ傷害理学療法研究会による合同のサポートチームが設立され、スポーツ傷害による選手生命の危機を予防することを目的とした活動と各種啓蒙活動がなされている。そこで、これまで県大会で実施してきたメディカルサポートの具体的な方法を踏まえながら、そこから得られた現状を報告し、その結果から抽出した問題点より考えられる次年度以降から取り組むべき課題を提示したいと思う。

〔対象及び方法〕

対象は、第83回県大会から第87回県大会のベスト8以降で出場した35試合中の70チームとなる。

県大会の事前準備として、サポートの依頼を県高野連から宮崎県理学療法士協会へ通じ、県内の理学療法士会員に対して協力要請を行った。また指導者・選手へのサポートの流れ・指導する内容の確認と統一化を図るため事前の勉強会を開いた。サポートの内容としては、①試合前のウォームアップ指導・処置(テーピング・ストレッチ・徒手療法など)、②試合中のアクシデント救急処置(アイシング・テーピングなど)、③試合後のクールダウン(アイシング・ストレッチ)指導・故障選手ヘリコンディショニング・相談事業な

どを実施した。さらにサポートにおける人員体制としては、当初の予定として1試合各チーム3名で計画していたが、マンパワー不足にて2名ずつでの配置となった。

〔結果〕

5大会中(計35試合)の参加校は70チームで、理学療法士の帯同は累計71名(第83回県大会13名、第84回県大会15名、第85回県大会14名、第86回県大会15名、第87回県大会14名)であった。そのサポートの内訳としては、①ウォームアップ指導が延べ63名(投手30名、野手33名)、②試合中のアクシデント救急処置が延べ6名(投手2名、野手4名)、③試合後のクールダウン(アイシング・ストレッチ)指導が延べ109名、うち投手95名、野手(個別)14名に対し実施した。⑤痛みの訴えは投手28名(肩8名、肘3名、手2名、股5名、足2名、腰3名、背部4名、側腹部1名)、野手29名(肩3名、肘1名、手2名、指4名、股3名、膝10名、足4名、腰2名)であった。⑥テーピング施行は46名に行った。

〔問題点及び課題〕

5大会を通して主なサポート対応内容は、ウォームアップ指導・クールダウン指導・テーピングが中心であった。また対象選手の傾向として投手は肩、野手は膝が多く、70チーム中でクールダウンを実施したのは26チームであるが、ほぼ各試合での勝利チームとなっている。これらの医科学的サポートの必要性を指導者・選手は認識しはじめてきているものの、対象者数は横ばいの状態にある。特に連戦・連投が続く投手は勝ち進むにつれてコンディショニングの意義を意識してくるものと予測される。より早期の段階で介入するためにベスト8からの選手だけではなく、大会の前に全チームに対して事前調査を実施し、選手の状況を把握しながら理解を深めていくべきかと思われる。

今回の調査で得られた問題点としては、マンパワー(理学療法士)不足であり、各施設のサポートへの理解、業務とのすり合せが重要となってきたこと。さらに痛みや筋・関節に傷害のある選手が早期に医療機関へ出向き、適切なりコンディショニングが行われているかが不明である点である。

課題としては、今後の指導者研修会等にてスポーツ傷害予防に関する知見の拡大を念頭におきながら、理学療法のサポート導入の目的や趣旨を明確にし、高野連加盟校・役員等に周知を図っていきたい。加えて、指導者・選手からのニーズに応えられるよう知識・技術の研鑽をし、医療機関や競技団体との連携を作り、組織的な支援ネットワーク体制を構築していく必要があると考える。

8. 当院リハビリテーション部のスポーツ現場とのかかわり

—理学療法士としてのトレーナー活動—

財団法人 弘潤会 野崎東病院

リハビリテーション部 尾崎勝博 他スタッフ一同

整形外科 田島直也 井上 篤

民間病院の一理学療法士としてスポーツ医療に取り組んできたこの15年間で、多くのトレーナーが困難と立ち向かいながら築いてきた歴史と、現場を思う純粹かつ熱心な活動に触れることで多くのことを学んだ。同時にスポーツ現場での多くの指導者・選手との出会いは、苦しみ、悲しみ、喜びそして感動をともに分かち合うなど、様々の貴重な経験は社会人として成長する機会を与えてくれた。このような経緯と活動が、今のトレーナー活動を行う原動力となり、さらにはトレーナーの啓蒙活動へとつながっているものと考えている。

しかし、スポーツ現場での活動を実施する際には、解決しなければいけない多くの問題や課題がある。今回は、表に示す活動状況をもとに、病院の問題（医療保険制度など）、個人の問題（家庭、家族、休暇など）、そして現場活動を行う上での法的諸問題（医師との連携、賠償問題、理学療法士・作業療法士法、医療類似行為など）に焦点を絞り報告したい。

	試合帯同		練習、合宿参加		合計
	土日祝日	平日	土日祝日	平日	
MK高校バスケットボール部	27日	11日	24日	1日	63日
HRサッカー部	27日	5日	0日	5日	37日
MN高校バレー部	17日	10日	30日	50日	107日
MN高校サッカー部	21日	5日	23日	29日	78日
MSU大学サッカー部	32日	0日	48日	0日	80日
合計	124日	31日	125日	85日	365日

(表) 理学療法士5名の現場活動日数（平成17年4月～12月）

9. スポーツドクターとくに帯同ドクターの役割

橘病院
宮崎大学医学部整形外科

○田島 卓也 柏木 輝行 矢野 良英
帖佐 悦男 山本恵太郎

2002年にラグビー日本選抜、2003-2004年にU-19ラグビー日本代表、2004よりラグビー日本代表および2002年より高鍋高校ラグビー部の帯同ドクターをさせていただいております。

スポーツドクターの目的は選手がベストパフォーマンスを発揮するために様々な環境を整えることです。そのためには(1)外傷・障害の管理と対応、(2)コンディション管理、(3)ドーピング検査への対応が必要と考えます。今回はスポーツドクターとくに現場での活動を主とする帯同ドクターの役割について今までの経験をもとに報告したいと思います。

10. ユース年代の日本代表チームにおけるメディカルサポート

獅子目整形外科病院

○樋口 潤一

演者は2002年のU-16日本代表にはじまりU-18,U-19,U-20日本代表と各年代別のサッカー日本代表のメディカルスタッフとして国内での合宿や海外遠征、大会への帯同などの活動を行ってきた。その業務は選手のコンディション管理、傷害・疾病の診断、治療、試合時の救急処置など多岐にわたっている。今回はメディカルスタッフとしての経験をふまえてユース年代の選手に対するメディカルサポートについて報告する。

11. 競技力向上とスポーツドクターの役割について — 競技団体等の現場の立場から —

財団法人宮崎県体育協会

○佐土原 誠

この2年間、財団法人宮崎県体育協会の事業部として主に選手強化に係わってきた。財団法人宮崎県体育協会のスポーツ医・科学委員会の担当もしており、現場が求めるサポート体制や競技力向上に不可欠であるサポート体制等について報告する。

☆☆☆ 休 憩 ☆☆☆

特別講演（17：10～18：10）

座長 帖佐 悦男

『肩関節のスポーツ障害、疼痛性疾患の診療ポイント』

日本医科大学整形外科学教室 教授 伊藤 博元 先生

閉 会

第35回宮崎県スポーツ医学研究会 プログラム

日 時：平成18年10月14日（土）14:50～18:20

場 所：宮日会館 宮日ホール（11階）
〒880-0812 宮崎市高千穂通1-1-33 TEL 0985-26-5558

会 長：帖佐 悦男

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 参加者へのお知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

1. 参加費；医 師 1,000 円
 コメディカル 500 円
2. 年会費；医師 2,000 円
 コメディカル 1,000 円

※14:20～ 受付を行います

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 世話人会のお知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

14:20～14:50 宮日会館 第2会議室（10階）

宮崎県スポーツ医学研究会事務局
宮崎大学医学部整形外科学教室内
〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原 5200
TEL 0985-85-0986 FAX 0985-84-2931

共催：宮崎県スポーツ医学研究会・ファイザー株式会社

14:50 開 会

総 会

15:00～16:00 特別講演Ⅰ 座長：野崎東病院 田島 直也

「二軸動作」

京都大学高等教育研究開発推進センター
教授 小田 伸午 先生

16:10～17:10 特別講演Ⅱ 座長：宮崎産業保険推進センター 小岩屋 靖

「スポーツにおける突然死の現状と対策」

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院循環器内科
教授 武者 春樹 先生

17:20～18:20 特別講演Ⅲ 座長：宮崎大学整形外科学 帖佐 悦男

「靭帯再建術の科学と治療の実際」

北海道大学大学院医学研究科機能再生医学講座
運動機能再建医学分野
教授 安田 和則 先生

◆◆◆◆◆ 認定単位 ◆◆◆◆◆

日本整形外科学会教育研修会（専門医またはスポーツ医 各1単位）

※認定番号Ⅰ：06-1004-01 必須分野 [01]

Ⅱ：06-1004-02 // [14]

Ⅲ：06-1004-03 // [02 12]

受講料は、各1,000円です。

日本医師会生涯教育講座（3単位）

健康スポーツ医学再研修会 受講料は無料。

18:20 閉 会